

# 平成 29 年度第 1 回佐久市スポーツ推進審議会 会議録（要約）

日 時：平成 29 年 11 月 27 日（月）

午後 7 時 00 分～8 時 20 分

場 所：佐久市総合体育館 会議室

出席者 5 名

欠席者 4 名

事務局 5 名

1 開 会

2 自己紹介

3 あいさつ

4 議 事

（1）スポーツ推進計画について

ア 進捗状況と今後の予定について

（2）その他

5 閉 会

## 【質疑・意見等】

（1）スポーツ推進計画について

ア 進捗状況と今後の予定について

委員：資料 2 の基本目標 1 の 2 進捗状況で、年間を通じて 1 回以上スポーツをする成人の割合の増加というところで、目標値で平成 33 年度に 94%と掲げていますが、その根拠を教えてくださいと思います。この数字だけを見ると高齢者でデイサービスに行った場合のレクリエーションも入っている気がするんですが。

事務局：平成 27 年度に市民アンケートを実施したところ、「スポーツを行わない」と回答した方で、行わない理由が「怪我や病気のため」と回答した方がアンケートの回答者の全体の約 6%でした。本計画に掲げている数値目標の 94%は、怪我や病気ですportsを行えない方を除いて、年 1 回はスポーツや運動をするということで設定しています。

委員：後期高齢者はこの割合に入っていないということによろしいでしょうか。

事務局：成人 20 歳以上のスポーツ実施率となっていますので、後期高齢者も入っています。スポーツの定義として、競技スポーツとは別で、階段の上り下りや、徒歩や自転車による通勤などの健康のために意識的に行う身体活動も含まれています。

委員：この数値目標のスポーツの定義は、「する」「観る」「支える」でよろしいでしょうか。

事務局：この数値目標のスポーツの定義は、「する」のみです。

委員：中学校の部活動の関係で、県の教育事務所から各市町村にも話が合ったかと思いますが、総合型の中でもここ数年話題になっています。また、信州型コミュニティスクールのくんだりでも、各市内の小学校、中学校も対応しているかと思いますが、スポーツの関係で部活動について、どのように取り組んでいくのかという課題があります。望月中学校も総合型の枠の中に入って、共同で取り組んでいます。ただし、指導者をクラブの方に出すのではなく、今までやっている既存の指導者とコミュニケーションをとりながらやっていこうという形になっております。これからトップアスリートを育てるうえでも、また一般の人たちがスポーツに携わっていくうえでも、子どもをないがしろにしては語れない話だと思えます。それについて、具体的にどういう考えを持っていますか。

事務局：中学校の部活動について、理想はその地域に根ざしたスポーツクラブが中学校の支援に行けるような形だと思えます。今後は、総合型地域スポーツクラブ、体育協会の競技部、地域のスポーツクラブ、指導者等と連携を図りながら、柔軟に対応できるよう、取り組んでいきたいと考えています。

委員：各スポーツ団体にとって、垣根のない、どこでも融合できるような柔軟な対応をしていただきたいと思います。また、総合型地域スポーツクラブに関しては、全国的にも、障がい者スポーツ、東京オリパラにしても、総合型抜きでは語れないという形で、国からも、総合型の本部からも、広げていきたいというのがあります。総合型地域スポーツクラブが何をやっているかわかってもらえるように、行政からのバックアップをお願いしたいです。また、ニュースポーツの関係で小学校のクラブ活動でカローリングをやりたいという声があり、障がい者でも一般の人でも誰でもできるので、カローリングの道具を購入していただけるよう検討していただきたいと思います。

委員：少子化が著しく進み、子どもたちの数が少なくなり、子どもたち同士が集まって村や町の中を走り回っているということが少なくなってきたり、子どもが外で遊ばなくなっているように感じます。幼少期から外でスポーツをしたり、体を動かす習

慣をどうやって作っていくのかがとても大事だと思います。小さい子供たちに運動経験をさせてあげられるような場所や機会を作っていけたらいいなあと思います。また、スポーツ指導者が受講できるような講習会を設けていただいて、昔ながらの根性、忍耐、努力的な指導がないようにしていただきたいと思います。3時間も4時間もぶっ続けで練習を続けるようなことは、明らかに子どもたちの集中力の限界を超えています。40分から1時間ぐらいしか集中力が続かないので、その中で効率よくトレーニングをするような指導者が理想だと思います。コーチや指導者を対象にした科学的根拠に基づくトレーニングなどの講習会をやっていただければと思います。

委員：ドッジボール大会から始まって中学の部活もそうなんですけど、ドッジボールの審判がいなくて審判を保護者がやるという話もあったりする中で、学校の先生が休みの日に出てこれないという現実があるので、そういったときにどうやって親をうまく巻き込んで、一緒にスムーズに大会や運動を楽しめるのかがこれから大事になってくるのかなあと思います。子どもはやりたくても親の負担があるのでできないこともあったりするので、昔のように先生が引っ張って大会に出ていくような時代ではなくなっているの、どうやって家庭を巻き込みながら地域と一緒にやっていくのかということが大事になってくると思います。それから、先日のような川元さんの素晴らしいイベントがあるんですけど、浸透しないまま終わってしまうこともありますので、周知に力を入れて参加者を増やせればいいなあと思います。

委員：野山をかけめぐるということに関連して、先般、長野東高校が山荘荒船に泊まって、佐久の陸上競技場や荒船の自然を使って練習をしていたのではないかと思います。ハーフマラソンもそうですが、佐久のイメージのコースらしさがあまり感じられない。例えば、荒船の特徴のある山並みの中でのレースや神津牧場をふまえた自然の中で考えられないかなあと思いました。30年前か40年前に、三才山が、地域的にも誰も入れるような道がなく、秘密の練習ができ、しかも温泉があるという理由で、オリンピック施設の候補にあがっているようなことを聞いたことがあります。佐久らしい自然を生かして、また宿泊施設を活かして、構想の中にそんなことも入れていってもらいたいと思いました。

事務局：親を巻き込んでうまく子どもがスポーツをできるようにいろいろな工夫を考えていかなければならないと思います。例えば、ハーフマラソン大会の事前ランニング教室では「目指せリレーの選手」というフレーズを入れたところ、あっという間に250人ほど集まりました。やり方次第では、大勢の子どもたちを集めることが出来ます。また、子どもよりも親が先行している場合もありますので、そういったことも考

えながら工夫して取り組んでいきたいと考えています。指導者の講習の件ですが、行政だけが動くのではなく、民間活力を活用することも必要だと思います。例えば、先般、雨宮病院では、元プロ野球選手をお招きして、クリニックを開催したり、サッカーにおいても、クリニックを開催して、指導者にも、子どもにも教えていただいています。今後も、行政はもちろんのこと、関係団体と連携しながら、指導者の養成や育成に取り組んでいきたいと考えています。山荘荒船の件でございますが、佐久でもトライアスロンの全日本の合宿が行われたりしていますし、また最近高峰が大変人気があり、高峰、佐久、佐久穂を活用することも考えていきたいと思っています。